

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

あるなかでエッセンシャル・ワーカー (Essential Worker) とは、社会生活を支える仕事をしている方々のことを指すようですが、その範囲を示すことにとっても違和感があります。なぜならわたしたちは一人ひとり、社会のために重要な働きをしていることから、すべての人びとは必要不可欠 (Essential) なのです。もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がともに喜ぶという聖書のことばから社会システムのこと、そしてわたしたち一人ひとりの役割を考えてみます。

#### 【講師の紹介】押谷 一 (おしたに・はじめ) 先生

先生は篤信のクリスチャンであり、日本キリスト教会札幌北一条教会信徒・長老です。I コリント書12章12節、25-26節は先生の愛唱聖句でもあります。現在、環境共生学類資源再利用学研究室教授。博士 (地球環境科学)。以下に先生にお願いしてお寄せいただいた自己紹介を掲載します。

#### 《自己紹介》

大阪生まれ、東京育ち。北海道大学大学院で学んだことをきっかけに1998年より北海道に移住。主に途上国の産業公害対策、廃棄物処理・資源化、自然エネルギーなどを専門としてきましたが、最近は、快適な環境という視点から“ひとにやさしいまちづくり”に関心を寄せています。さらに明治維新前後から現代までの北海道の市民自治に関する近現代史も研究の対象としています。趣味はヒグマが生息するような自然豊かな溪流での釣りや読書です。クリスチャン・ファミリーではありませんが、こどもの時から教会や聖書のことに関心があり、現在は札幌北一条教会 (プロテスタントのひとつ、長老派教会のグループ) で長老を務めています。

#### 【キリスト教教育強調週間について】

キリスト教主義大学はキリスト教を基礎において学生の教育に当たっており、どのキリスト教主義大学でも年に数回にわたって強調週間を設けて、学生と教職員が教育の根幹にあるキリスト教教育について見つめ直す機会を設けています。本学ではキリスト教の社会的・文化的な多様性や広がりからのアプローチを心がけ、春と秋に強調週間を実施しています。

#### 【次回の大学礼拝】2021年11月2日 (火) 10時40分

聖書 フィリピの信徒への手紙2章12-13節

奨励 「人に従うのではなく」小林昭博先生 (宗教主任)

## 【大学礼拝週報】2021年度 第21号 (後学期第6号)

2021年10月26日 (火) 午前10時40分

リモート礼拝 (酪農学園大学 黒澤記念講堂)

### 【秋期キリスト教教育強調週間】

《大学礼拝》

〈礼拝動画の配信〉

前 奏

讃美歌 讃美歌202番 (奇しきみすがた)

祈 り

聖 書 コリントの信徒への手紙一 12章12、25-26節

奨 励 「社会システムにおける Essential とは——キリストの体の一部」

押谷 一先生 (環境共生学類教授)

祈 り

讃美歌 讃美歌405番 (神ともにいまして)

報 告

後 奏

#### 【本日の聖書】コリントの信徒への手紙一 12章12、25-26節

12体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。

25それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。  
26一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

#### 【講師からのメッセージ】社会システムにおける Essential とは

——キリストの体の一部

日本の人口は、およそ1億2000万人余り、職種の数は約1万7000種類以上